

科目名称：	ゼミナールⅡ	
担当者名：	藺森 喜美、藤元 宏一、瀬戸 就一、矢澤 建明、越野 裕美子、廣瀬 元、井戸 健敬、若月 博延、坂上 牧子、小原 慎平	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
入学以降、ビジネス実務に関して幅広い学修を行い、ビジネス現場で役立つ知識や技能を身に付けてきました。ゼミナールでは、これまでに学んだ知識・スキルを活用し、少人数のチームで研究テーマを設定して教員指導の下で自発的な研究調査・課題解決を行うことにより、能力発揮のしかたを学んでいきます。内容は、前期の「ゼミナールⅠ」からの継続になります。また、各教員の指導の下、ふれあいを通して有益な学生生活を送ることもゼミナールの大きな目的であることも付け加えておきます。		
授業の達成目標・到達目標		
「ゼミナールⅡ」では、前期の「ゼミナールⅠ」での実績を踏まえて、研究調査・課題解決の最終成果を出すのが第一の目標です。成果物は最終の公開研究発表会でビジネス実務学科全学生・教員の前でプレゼンテーション形式での発表を行います。これらの活動を経ることで、各学生が社会人としての考察力・発信力を身に付けることが第二の目標です。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)				100	100
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

ゼミナール活動ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
問題設定力	自ら問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。さらに、問題を記述し明確にできる。	自ら取り組む問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。	自ら問題設定をすることはできないが、何が問題かを明らかにできる。	何が問題か明らかにはできないが、問題設定の議論に加わることができる。
調査分析力	問題解決のために必要な分析できる能力があり、そこから新たな提案をすることができる。また、インターネットだけでなく、必要な文献を検索し、読解することができる。	問題解決のために、必要な資料さえあれば分析できる能力がある。インターネット等で必要な資料を集めることができる。	メンバーの一員として、分析に協力できる。	メンバーの一員として分析した内容を理解している。
共同作業力 × 2	グループのリーダーとしてまたはそれに準ずる役割を發揮し、研究・調査・制作を行い、まとめることができる。グループのスケジュールを調整し、遂行することができる。	グループのリーダーをサポートする役割を果たし、研究・調査・制作を行い、これをまとめることができる。	グループの一員として研究・調査・制作に貢献している。	グループの一員として研究・調査・制作の作業ができる。
実地調査力	自分ひとりでアンケート調査、インタビュー調査を設計することができ、さらにフィールドワークを実践できる。	グループ全体でアンケート調査、インタビュー調査を設計することができ、さらにフィールドワークを実践できる。	グループの一員としてアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。	フィールドワークの経験はないものの、各種調査をすることができる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「ゼミナールⅠ」で学んだ内容を基に、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の課題をどうするか議論する。	「ゼミナールⅠ」で学んだ内容を復習する。	20分
第2回 課題の明確化を議論する。	ゼミナール発表会のための課題をどう設定するか考えておく。	30分
第3回 各ゼミテーマに沿って、資料収集・インタビュー調査・フィールドワークを行っていく。	課題を基に、各自情報収集をする。	40分
第4回 収集データのまとめと考察を行う。	各自、情報収集の報告データをまとめておく。	40分
第5回 各ゼミテーマに沿って、研究方策・制作方策の立案を行う。	データを基に、各自、研究・制作の方策を考えておく。	30分
第6回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第7回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第8回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第9回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	60分
第10回 活動のふりかえりと今後の課題を検討。	各自、活動のまとめを行う。	60分
第11回 発表概要集の作成。	発表概要集作成の準備。	60分
第12回 発表概要集の作成。	発表概要集の校正。	60分
第13回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。(ポスターセッションポスター作成)	ゼミナール発表会(パワーポイント・ポスター等)の準備。	60分
第14回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。(ポスターセッションポスター作成)	ゼミナール発表会(パワーポイント・ポスター等)の準備。	60分
第15回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。	ゼミナール発表会(パワーポイント等)の準備・発表練習。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各ゼミ教員の方針にもよるが、準備などを小レポートにまとめることとする。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
活動状況50%、発表概要及び発表会を50%で考慮し、ゼミナール担当教員全員で、評価します。

課題に対してのフィードバック

活動の最終段階で、各ゼミナール担当より活動状況についてのルーブリック評価を返却します。

教科書・参考書

各ゼミナール担当教員の方から随時指定します。

「金城ビジネス学会」 発表ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
発表内容・構成（発表概要 含む）	問題設定が明確であり、豊富な内容をきわめて論理的に構成して発表している。	問題設定が少しあいまいであるが、内容が豊富で論理的に構成された発表をしている。	内容は豊富であるが、問題設定があいまいで、構成が体系立てられていないまま発表している。	内容としての分量はあるものの、問題設定がなく、まとまりのない発表をしている。
スライド、図表・画像・映像など	プレゼン内容を補強するための図表・画像・映像などを効果的に使い、文章を多用せず、インパクトがあるスライドを作成している。	文章は多いものの、内容を支持する図表・画像・映像などを使っている。	図表・画像・映像をたまに使っているが、プレゼン内容を支持しておらず、文章中心のスライドをつくっている。	図表・画像・映像をまったく使わず、文章のみのスライドをつくっている。
発表姿勢	聴衆とアイコンタクトを保ち、大きな声でボディランゲージがあり、スライドをほとんど見ずに発表している。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージ、スライドを見ずに発表のうち、2つができています。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージ、スライドを見ずに発表のうち、1つができています。	聴衆とのアイコンタクトがとれず、声が小さく、ボディランゲージもなく、ずっとスライドを見たまに発表している。
内容理解・質問応対	プレゼン内容を十分に理解して発表している。また、質問に的確に応え、かつ詳しく説明できる。	プレゼン内容を理解して発表している。質問に対してつまることもありますが、何とか説明できる。	プレゼン内容をよく理解せずに発表している。初歩的な質問には応えられる。	プレゼン内容の知識に乏しいまま発表している。内容に関する質問にうまく応えられない。
他の学生の発表を聴く者として	他の学生の発表を真剣に聴き、関心のある発表で積極的に質問している。	質問はできなかつたが、他の学生の発表を真剣に聴いている。	質問することもなく、他の学生の発表をよく聴いていない。	他の学生の発表中に、うっかり居眠りをしている。

以下は昨年度の研究テーマ（後期）の参考例です。

- ・『白山菊酒クッキー』プロジェクト～受け継ぐふるさとの思い～
- ・ふるさと能美市プロジェクト～国造柚子の魅力を知ろう～
- ・ふるさと野々市市プロジェクト～ヤーコンを広めよう～
- ・海を救おう大作戦～Marine waste recycle～
- ・ダンスで健康になろう
- ・鶴来でコーヒースタンド
- ・キャンドルワークショップを終えて～私たちが考える改善点～
- ・サマフェスキッズランド2022報告と改善案
- ・サマフェスのアンケート集計とツールの相違点
- ・小学校ロボット・プログラミング親子体験講座2
- ・自動車電動化の現状
- ・白山検定アプリの改良
- ・GASとLINEを使用した学園祭クラス会計記録システムの構築
- ・白山市が誇るイベントに参加・協力してみた
- ・富山湾岸サイクリングコースvs手取キャニオンロード
- ・金城花子が伝える白山市の魅力～インスタグラム・TikTok～
- ・地域を元気にする～兼六園ガイド2022～
- ・地域を元気にする～美川里海きときと祭り2022～
- ・地域を元気にする～SDGsスタディーツーリズム～
- ・SDGsにトライ！～目指すべきゴール～
- ・DISCOVER ISHIKAWA ～白山市、加賀市の魅力、再発見！～
- ・癒しのCafe
- ・私たちが考えるハーブについて
- ・ポジティブ心理学について
- ・写真で伝える鶴来の魅力
- ・白峰の魅力とは？ ～パンフレットを作ってみよう～